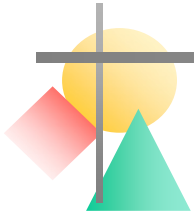
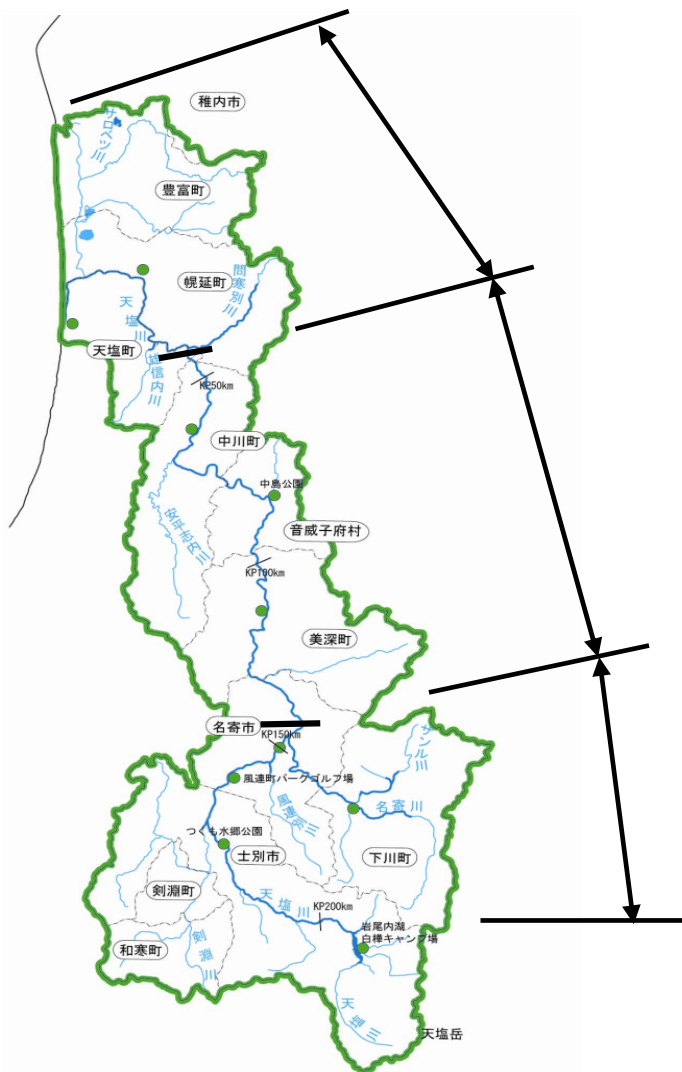


資料-1

H20.3.4



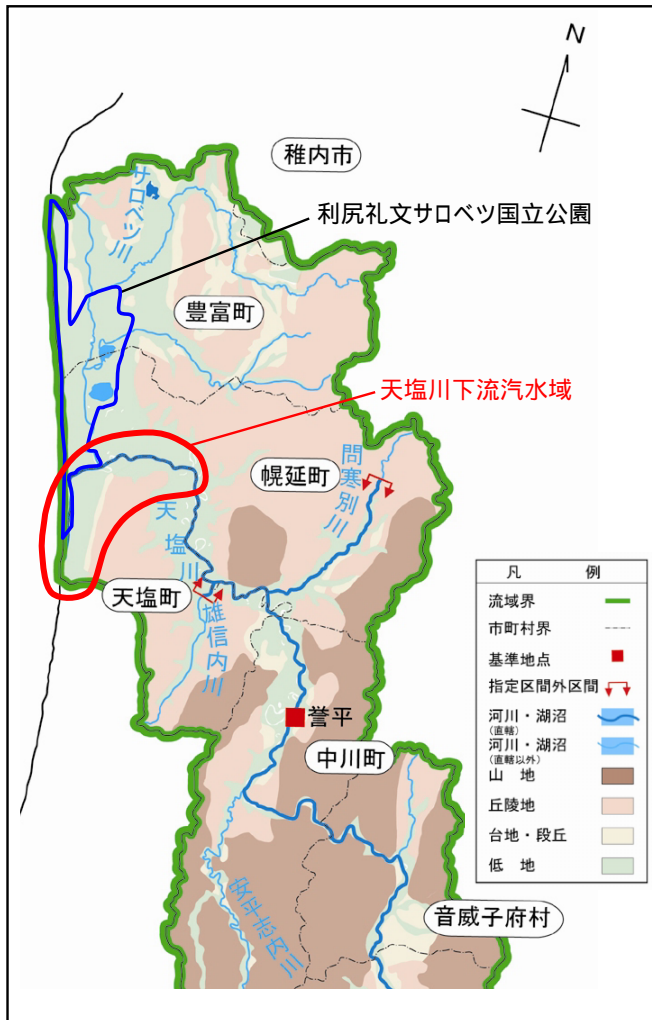
天塩川魚類生息環境保全について その4



区分	区間	河床勾配	河床材料	区分概要
	河口～ 問寒別川合流点付近	1 / 3000 ～ 1 / 5000程度	シルト 及び細砂	泥炭地が分布している低 地を流下する感潮域を含 む区間
	問寒別川合流点付近～ 名寄川合流点付近	1 / 700 ～ 1 / 2500程度	砂礫	狭窄部及びそれに挟ま れる低地を貫流する区 間
	名寄川合流点付近 より上流	1 / 700以上	礫	山間の狭隘部に多数の 支川が合流し、山地から 扇状地を流れる区間

天塩川下流汽水域の現状について

(撮影年月:平成17年8月)



KP6.0付近より下流



KP13.0付近より下流



KP19.0付近より下流



KP23.0付近より下流

調査地点	河川名
1 河口大橋	天塩川
2 上幌延	
3 問寒別川合流点	
4 右岸1号樋門	問寒別川
5 東延橋上流	



天塩川下流汽水域は栄養塩が豊富で、底生生物や魚類等が生息している。また、渡り鳥の中継地や採餌環境にもなっているなど、独特な河川環境を形成している。

汽水域の調査地点(1.河口大橋)で確認された主な底生生物

魚類

科名	種名	1	2	5	3	4
ヤツメウナギ	スナヤツメ	●	●	●	●	●
	カワヤツメ	●	●	●	●	●
ニシン	ニシン	●	●	●	●	●
コイ	コイ(外)	●	●	●	●	●
	ゲンゴロウブナ(外)	●	●	●	●	●
	ギンブナ	●	●	●	●	●
	ヤチウグイ	●	●	●	●	●
	マルタ	●	●	●	●	●
	エゾウグイ	●	●	●	●	●
	ウグイ	●	●	●	●	●
	モツゴ(外)	●	●	●	●	●
ドジョウ	ドジョウ(外)	●	●	●	●	●
	フクドジョウ	●	●	●	●	●
キュウリウオ	ウカサギ	●	●	●	●	●
サケ	イトウ	●	●	●	●	●
	アママス	●	●	●	●	●
	ニジマス(外)	●	●	●	●	●
	サケ	●	●	●	●	●
	ザクラマス	●	●	●	●	●
	ヤマメ	●	●	●	●	●
トゲウオ	イトヨ	●	●	●	●	●
	トミヨ	●	●	●	●	●
	エゾトミヨ	●	●	●	●	●
	イバラトミヨ	●	●	●	●	●
カジカ	ハナカジカ	●	●	●	●	●
ボラ	ボラ	●	●	●	●	●
ハゼ	ミズハゼ	●	●	●	●	●
	シマウキゴリ	●	●	●	●	●
	ウキゴリ	●	●	●	●	●
	ピリング	●	●	●	●	●
	ジュスカケハゼ	●	●	●	●	●
	アシシロハゼ	●	●	●	●	●
	トウヨシノボリ	●	●	●	●	●
	ヌマチチブ	●	●	●	●	●
カレイ	ヌマガレイ	●	●	●	●	●

科名	種名
シジミ科	ヤマトシジミ
ゴカイ科	ゴカイ
	イトメ
キタヨコエビ科	オオエゾヨコエビ
メリタヨコエビ科	イソヨコエビ
アミ科	イサザアミ
テナガエビ科	スジエビ
コツプムシ科	イソコツプムシ
イワガニ科	モクズガニ
スナガニ科	アリアケモドキ



ヌマガレイ



アシシロハゼ



ヤマトシジミ



ゴカイ

魚道調査について

1. 魚道遡上調査

- (1) 構造物の遡上に関する機能確認
- (2) 調査用魚道による遡上調査

2. 魚道降下調査

- (1) 頭首工等からの落下に関する調査
- (2) 美利河ダム魚道施設を用いた降下調査

【調査目的】

天塩川流域(直轄区間)における、現況の構造物について、魚道の機能が有効に生かされているかを確認するものである。

【調査時期(予定)】

平成20年6月～11月

【調査方法(案)】

現況の構造物による遡上機能について、魚道入口の見つけやすさ等の観察を行い水理状況を確認する。



真敷別頭首工



川向取水堰

【調査目的】

「魚道の機能性」及び「サクラマスの産卵遡上行動」を把握するため、調査用魚道を用いた遡上調査を行うものである。

「魚道の機能性」
魚道内の水理環境
迷入防止対策の効果
魚にとって分かりやすい魚道入口構造の確認

【調査時期(予定)】

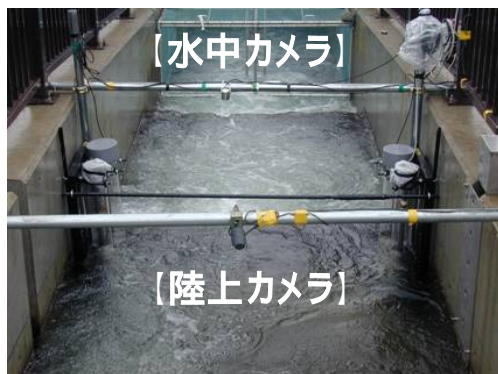
平成20年8月～10月(サクラマス遡上時期:8月から10月より)

【調査方法(案)】

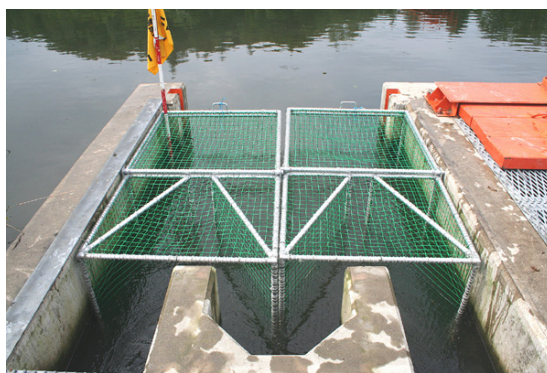
目視及びカメラによる観察
流況の把握
トラップ調査
産卵床分布調査等

1 - (2) 調査用魚道による遡上調査

カメラによる観察例(美利河ダム)



トラップ設置状況(H18上名寄頭首工)



産卵床分布調査状況



2 - (1) 頭首工等からの落下に関する調査

【調査目的】

サクラマスのスモルトが降下する時期における、頭首工等から落下する影響について確認するものである。

【調査時期(予定)】

平成20年4月下旬～6月上旬(スモルト降下時期:4月下旬から6月上旬より)

【調査方法(案)】

落下による影響について、落下高及び水深等についての調査を行う。



真敷別頭首工



名寄川頭首工

【調査目的】

美利河ダムの魚道については、平成17年4月に完成し、同年5月下旬にスマルトを放流している。

その後、平成18年秋に美利河ダムの魚道を遡上していることから、産卵孵化したものが、平成20年春にスマルト化して降下する見込みである。

以上より、自然産卵による美利河ダム魚道施設の効果について、調査するものである。

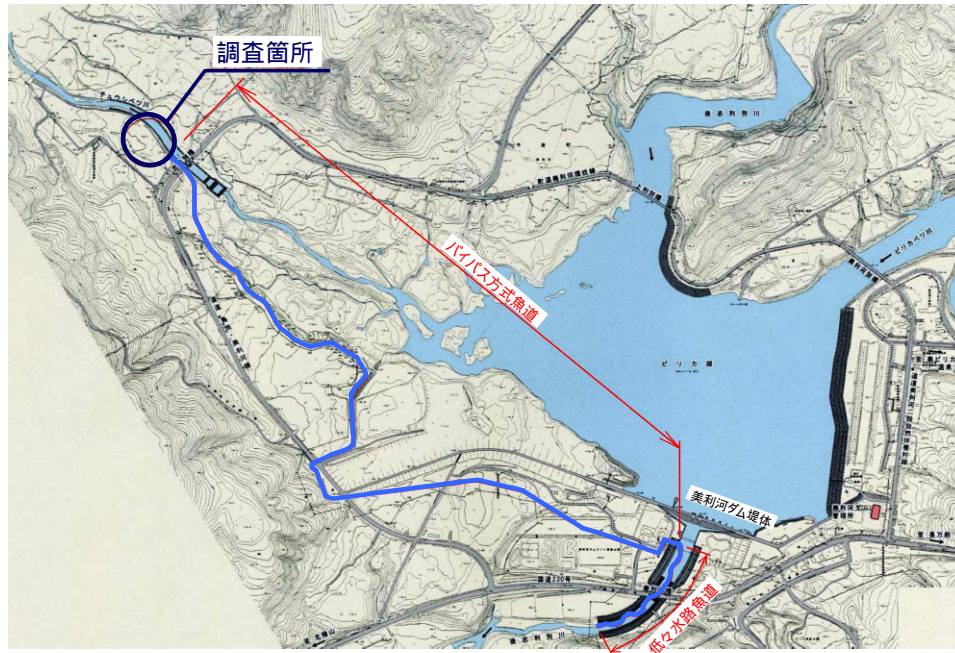
【調査時期(予定)】

平成20年5月下旬

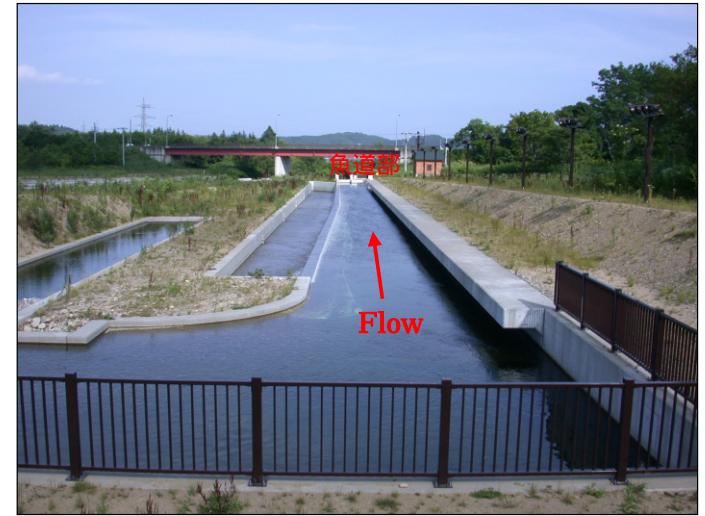
【調査方法(案)】

トラップ調査
目視及びカメラによる観察
魚道下流部での追跡調査等

2 - (2) 美利河ダム魚道施設を用いた降下調査



魚道平面図



分水施設(上流から)



魚道部トラップ調査状況